

(法第28条第1項)

平成28年度 特定非営利活動に係る事業報告書(第9期)

千葉県松戸市新松戸四丁目257番地の1ニューホームズマンション1階
特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド
理事長 三浦 輝江

1 事業の成果

ユース事業

- ・里山草刈りは千葉県市原市にて開催。市原市・報徳の会の協力を得て、2泊3日の草刈りボランティア活動を行った。古道の整備やザリガニ釣り、猪の肉を食べる等、普段体験できない活動は、参加した中高生にとってよき体験となった。
- ・ユーススペースは放課後の中高生の居場所として開催。ゲーム、バンド、勉強、心の相談など自由に参加。中高生にとって大切な居場所となっている。
- ・2014年から行われている「あなたは高価で尊い存在」がテーマの自己肯定感を高める出張授業を、今年度は県立行徳高等学校(春秋計2回)、県立松戸向陽高等学校、県立馬橋高等学校の計3校で行った。アンケートによると、3校とも授業が始まる前は「自分のことが嫌い」という生徒がほとんどだったが、授業の終わりには「自分のことを大切だと思える」という生徒が増えた。
- ・ユーススペースで育った高大生数名が、松戸市子どもわかもの課主催の子どもフォーラムにて、ファシリテーターとして活躍した。

ゲットユアドリーム事業

- ・松戸市中高生支援事業として委託されている。
- ・松戸市女性センターゆうまつど、松戸市立根本内中学校にて計2回のゲットユアドリーム(自分の将来を考えるワークショップ)を行い、合計104名の中高生が参加。ユーススペースで育った高大生、新社会人たちがファシリテーターとして活躍。講師計12名を招き、参加者は自分の将来について語り合った。本年度初めて学校と連携したことにより、より多くの中学生たちに将来について考える機会を提供することができ、ほとんどの生徒がこれまでより将来について考えることができたアンケートに回答があり、先生方、ご父兄にも好評を得た。

学習支援事業

- ・平成28年度、今までの中学生を対象にした学習支援を月・木コースと火・金コースの2コースを開設、さらに小学生を対象に月2回土曜日コースを始めた。

- ・利用者は、ほとんどが徒歩、自転車で通える範囲からの利用。
年間延べ 1301 名（前年 1251 名）、1 回平均の参加者数が 6.57 人（前年 12.63 人。）
1 日平均の利用者が半数になったのは、開催日時が倍に増えたこと、欠席者に対するフォローがなされていなかったことが影響したと思われる。
内訳は 3 年生が 48%、2 年生 28%、1 年生 24%で、前年は 3 年生が過半数を超えていたが、今年は 1、2 年生の合計が 3 年生を上回った。毎年徐々に、他の学年の利用率が伸びている。
- ・例年より受験生のエンジンのかかりが遅く、ギリギリになっても危機感がない生徒もいたが、結果、利用者のテストの点数が全体的に底上げし、3 年生で定期的に利用していたメンバーは、全員志望校に合格できた。
- ・学習だけではなく、楽しいイベントも開催（8 月すいか割り大会、9 月アイスクリームパーティ、10 月クレープパーティ、12 月クリスマス、3 月卒業パーティ）。昨年度利用していた高校生たちが「自分がお世話になったから、後輩たちにも何かしたい。」とボランティアでイベントの企画、運営に参加。支援を受けるだけでなく、貢献しようというよい文化、よい手本になっている。
- ・今年は SNS などではじめを受けたり、インターネットにはまって勉強ができなくなっている生徒の話から、千葉県が制作したインターネットの利用のルールについての啓蒙 VTR を休憩時間などに見た。
- ・昨年に引き続き、3 月には厚労省参事官をゲストスピーカーにお招きして、職業について、将来についてのミニワークショップを行い、将来について考えるよい機会となった。

「キッス」

- ・今年度初めて世界のお友だちへのクリスマスプレゼント「シューボックス」を実施した。クリスマスプレゼントをもらったことがない貧困問題を抱える国のお友だちに送り届けることができた。
- ・恒例となった地域のゴミ拾いは「たばこ」にスポットをあてて「たばこ 1000 本チャレンジ」を目標にして地域を歩き 1 時間で 1636 本拾い地域の人たちにも関心を持ってもらうことができ「小学生が地域に影響を与えることができる」という自信につながった。

「おやこ DE 広場 旭町」

- ・乳幼児と保護者が安心して過ごすことができる居場所として利用者の方に喜んでもらえた。
- ・旭町中の夏休みボランティアは去年より増えて、計 21 回 58 人の参加があった。ふれあい体験は 3 クラス、86 人が参加した。ふれあい体験は季節はずれの降雪や感染性胃腸炎により、延期になったが、生徒さんが楽しみにしているということで、受験生にもかか

ならず、1月24日に最後のクラスを実施した。

- ・シルバー人材センター、はつらつクラブの方々にイベントのお手伝いをいただき、シニア交流センターではゴーヤの収穫体験をさせていただくなど、高齢者の方々と共に異年齢交流を続けている。

子育てセミナー

- ・子どもの自立のために大切なバウンダリーの形成は家庭でのコミュニケーションがカギであることを学びながら、ディスカッションを通して参加者がコミュニケーションのトレーニングができる時間をもった。また、ランチタイムにご飯を提供し、ママたちの居場所ともなった。

- ・スマホが子どもの脳に与える悪影響や依存症の原因になる危険性、親子間の信頼関係を築く妨げとなることを伝える機会を増やした。

リトミック

- ・子どもと保護者のリズム体操などだけではなく、お父さん向けのバウンダリーを紹介し、夫婦で子育てをする大切さの啓蒙に努めた。子育ての悩みを聞く時間も設けた。